

令和 5 年 6 月 12 日現在

機関番号：32641

研究種目：若手研究

研究期間：2018～2022

課題番号：18K12516

研究課題名（和文）近代地域史研究のための旧藩社会に関するアーカイブズ資源研究 旧佐倉藩を中心に

研究課題名（英文）Archival resource research on former clan societies for the study of modern regional history

研究代表者

宮間 純一（Miyama, Junichi）

中央大学・文学部・教授

研究者番号：10781867

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 4,800,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、近年日本近代史研究の分野で活発化している旧藩社会研究を前進させるために、大名華族家などの下に集積したアーカイブズの分析を行うものである。旧藩社会とは、旧藩主（大名華族）・旧藩士（士族）・旧領民とその子孫による社会的結合のことをいう。廃藩置県によって政治・行政体としての藩は消滅したが、その結び付きは失われず、地域社会の近代化に大きな影響を及ぼしたことが先行研究によって知られている。しかしながら、研究資源となるアーカイブズの分析は行われてこなかった。そこで、本研究では旧佐倉藩主堀田家などに伝来したアーカイブズ資源研究を行い、目録を作成するとともにいくつかの論文などを発表することができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では、大名華族家などに伝来する史料群の分析を主に行った。旧佐倉藩主堀田家に遺ったアーカイブズを中心に研究を進め、史料群を生み出した組織の機能と文書一点ごとの関係を明らかにした。また、明治期以降の歴史編纂事業の中で近世以来の史料の選別や編集が進められたことが明らかになった。史料群の全体構造が把握できたことにより、地域社会史の中で重要な研究課題となっている旧藩社会の研究が一層深めることができる。また、本研究は事例研究ではあるが多くの大名華族家の文書群に共通する点がみられるので、他の地域に敷衍することも期待される。

研究成果の概要（英文）：This study is an analysis of archives accumulated under former feudal lords and other families in order to advance the study of former clan society. The term "former clan society" refers to the social bonds formed by former clan lords, former clan warriors, former lords' citizens, and their descendants. With the abolition of the han system, the clan as a political and administrative entity ceased to exist. However, the ties among the people were not lost, and had a significant impact on the modernization of the region. On the other hand, there has been no analysis of archives as research resources. Therefore, in this study, we analyze archives inherited from the Hotta family, the former feudal lord of Sakura, from the viewpoint of archives studies. As a result, we were able to compile a catalog and publish several papers.

研究分野：歴史学、アーカイブズ学

キーワード：大名華族 旧藩社会 士族 アーカイブズ 佐倉藩 堀田家

## 1. 研究開始当初の背景

### (1) 旧藩社会研究の活況

2000年代に入ってから、旧藩社会をめぐる研究が活性化しており、現在では、近代日本の地域社会史研究の分野において主要なテーマの一つとなっている。旧藩社会とは、旧藩主・旧藩士・旧領民とその子孫による社会的結合のことをいう。

近年、旧藩主家(大名華族家)の近代史料の整理・公開が進んだことを背景として、事例研究が積み重ねられている。それらの成果によって、1871年の廃藩置県以降も旧藩社会が旧領地域に大きな影響力をもっていたことが明らかにされてきた。農事試験場の設立や育英事業の展開、鉱山の経営、学校への寄附など、旧藩社会が地方の産業や教育の「近代化」に果たした役割は小さくないことが解明されている。

以上のような研究動向を背景として、近代の地域社会史を理解する上で旧藩社会のありさまを知ることは不可欠となっている。

### (2) アーカイブズ研究の不足

上記のように、史料に基づいた個別具体的な研究が進む一方で、研究のために活用されてきた史料群(アーカイブズ)の史料学的/アーカイブズ学的な分析は行われていない。近世大名のアーカイブズについては、歴史学、アーカイブズ学を専門とする研究者によって史料学的/アーカイブズ学的分析が進められてきた。その反面、廃藩以後に作成された近代史料は、それらの検討の範疇には含まれず、これまでほとんど扱われてこなかった。

しかしながら、旧藩社会研究をさらに進めるためには、史料1点ごとのテキスト分析を行うだけではなく、史料群の全体構造を把握しなくてはならない。アーカイブズ全体の中に個々の史料を位置づけ直すことで、史料の意義が再定義され、これまで明らかにされてきた事象をとらえ返すことが可能になる。また、文書管理の面から旧藩社会の性格を検討することも可能となる。

## 2. 研究の目的

### (1) アーカイブズ資源研究

旧藩社会に関係する文書群を対象としたアーカイブズ資源研究を行い、旧藩社会アーカイブズの特徴を明らかにする。旧藩社会の活動にともなって作成された文書が保存され、整理・保管され、利用されてきた歴史的な経緯を追跡する。

特に、旧藩社会の核となる大名華族家に伝来したアーカイブズの構造分析を中心に検討を進める。また、大名華族家の活動と関連がある旧藩士や旧領民のアーカイブズも適宜収集・分析を進める。

(2) 旧藩社会研究 上記(1)のアーカイブズ資源研究をふまえた旧藩社会の研究を進める。旧藩社会をめぐる研究は、従来産業・教育、大名華族家の経営、家史編纂事業などが別個に検討されてきた。本研究では、大名華族家のアーカイブズの全体構造を把握した上で旧藩社会がもつ機能の総合研究を行うことにより、個々の活動の有機関係を捉え旧藩社会の全体像を把握することを試みる。

## 3. 研究の方法

### (1) 「下総佐倉 堀田家文書」の分析

具体的な研究対象としては、下総国佐倉藩を選択する。下総佐倉藩は11万石の譜代藩であり、延享3年(1746)に堀田正亮が入封して以降、藩主は堀田氏であった。「下総佐倉 堀田家文書」(佐倉市寄託)は、近代史料が約1万点残っていることから残存状況が良好であり、本科研の目的を遂行しうる文書群であることから研究対象として選択した。また、旧藩士などの史料も佐倉市史編纂事業などの中である程度把握されているため、研究のための条件が整っていた。

### (2) 旧佐倉藩社会の検討

「下総佐倉 堀田家文書」のアーカイブズ資源研究を踏まえた旧佐倉藩社会の研究を行う。堀田家の家政・経営から旧領地域の産業・教育への投資、藩史の編纂事業などを史料の残存状況に即して分析する。

### (3) 比較研究

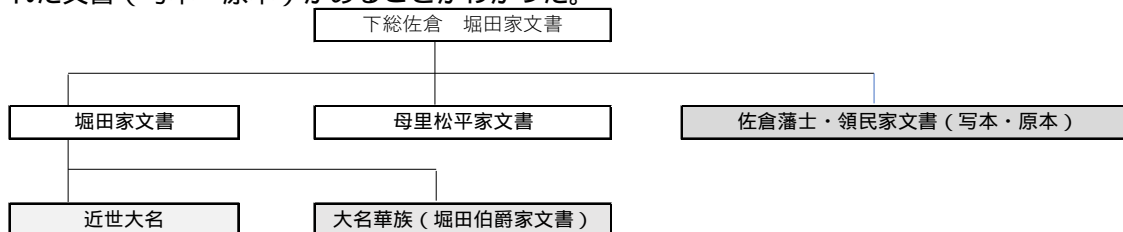
佐倉の事例を相対化するため、可能な範囲で比較研究を行う。本研究では、特に佐倉藩よりも規模の大きな藩、小さな藩との比較を試み、秋田藩(佐竹家)・久留里藩(黒田家)を分析する。とりわけ秋田藩の在郷給人家の史料群を集中的に分析した。

## 4. 研究成果

### (1) 「下総佐倉 堀田家文書」の構造

約1万2000点におよぶ「下総佐倉 堀田家文書」の目録を作成・編成し、全体構造を把握した。おおよその構造は下図のとおりとなる。このうち、領主としての地位を失った後に作成され

た「大名華族」としての文書群は約 9000 点である。他には、江戸時代に作成された「近世大名」の史料群がある。また、堀田家と縁戚関係にあった母里松平家文書、旧藩士や旧領民から献上された文書（写本・原本）があることがわかった。



## (2) 家史編纂事業を記録の改編

堀田家では、明治 10 年代後半から「佐倉藩紀」の編纂事業が開始した。「佐倉藩紀」は、佐倉藩の歴史を歴代の当主ごとにまとめた編纂物である。この編纂事業が進められる過程で、叙述のための材料とされた「下総佐倉 堀田家文書」に含まれる近世の記録が改編されていたことがわかった。なかでも、堀田家の歴史の中で特別視されていた、幕末期に老中をつとめた堀田正睦の外交に関する記録は、何度か手が加えられている。「史料集」としてまとめられたり、他の文書とは分けて管理されたりしている。

また、編纂事業が進む中で、旧藩士や旧領民の家が所蔵する文書の写本や原本が、堀田家に献上されていたことがわかった。これは、家史の編纂事業に必要な史料収集であるが、献上する側に内在する旧藩主家の歴史に自己の歴史を位置づけたい、という欲求によって成立したものであった。家史の編纂は、堀田家にかぎらず、同時期に他家でも進められている。堀田家で見られた家史編纂にともなう記録の改編・移動は大小の差はあるにせよ、大名華族家のアーカイブズを考える上で共通して論点となる問題であると考えられる。

このことについては、「地域における明治維新の記憶と記録」(『日本史研究』679、2019)にて詳細に論じたので参照されたい。

## (3) 旧佐倉藩社会の実態

旧佐倉藩を基盤とした結びつきは、廃藩以後も続き、旧藩主と旧藩士らによる佐倉郷友会や、旧藩士や旧領民の就学支援を行う佐倉奨学会、堀田正倫が資金を投じて設立・運営した堀田農事試験場などの場面でみられた。こうした旧藩社会が継続したのは、行政が行き届かない分野を補完するためであったと考えられる。旧藩士や旧領民は、廃藩後もことあるごとに、旧領地域の利害をうたえて堀田家を頼り、経済的援助を求めている。旧藩士・旧領民にとって身分制度が解体された後も、堀田家は生存のために必要な存在であった。

こうした架空の共同体を維持するために必要とされたのは、擬似的な主従関係を支える集合的記憶である。堀田家の当主である堀田正倫は、日清・日露戦争の凱旋式・招魂祭や堀田家の慶事などの場面で、つねに堀田家と地域の歴史を語り、近世からつづく旧藩士・旧領民とのつながりを強調した。また、住民たちもこうした歴史を積極的に受け入れ、堀田家を基軸とする集合的記憶が形成された。

堀田家の経営の場面でもこうした主従関係はみられる。堀田家は、明治 20 年代から旧領地域とその周辺に土地を集積し大地主化していくが、毎年賄人や小作人らを招いて収穫物の品評会を催し、その場で擬似的な主従関係が確認された(「大名華族家における地主経営に関する一考察 下総佐倉堀田家の事例から」『紀要 史学(中央大学文学部)』66、2021 参照)。

以上のような、旧藩社会の全体像は、「下総佐倉 堀田家文書」の全体構造が把握されてはじめて捉えることが可能となった。

## (4) 比較研究

堀田家の事例を相対化するために、秋田藩大館の在郷給人中田家の文書群を分析した(国文学研究資料館所蔵)。秋田藩のような藩領が広域にわたり、城下町以外にも藩士が居住しているケースでは、旧藩社会に近世の身分制に基づく小集団が複数存在しており、小集団間で対立・葛藤が存在したことが判明した。つまり、佐竹家の旧臣団という単位でひとくくりにはできない、より重層的な構造が旧藩社会を構成していることが明らかになった。また、久留里藩のような小藩の事例でも、小規模ながらも旧藩としてのまとまりが昭和期まで存在したことが判明した。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 宮間純一	4. 巻 291
2. 論文標題 明治期における大名華族と旧臣団 佐竹侯爵家と旧大館給人	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 中央大学文学部紀要	6. 最初と最後の頁 51-81
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 宮間純一	4. 巻 286
2. 論文標題 大名華族家における地主経営に関する一考察 下総佐倉堀田家の事例から	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 中央大学文学部紀要	6. 最初と最後の頁 25-47
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 宮間純一・大沼大晟	4. 巻 34
2. 論文標題 資料紹介 佐倉藩土岩瀬清十郎「横浜表出張手控」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 佐倉市史研究	6. 最初と最後の頁 74-93
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 宮間純一	4. 巻 679
2. 論文標題 地域における明治維新の記憶と記録	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本史研究	6. 最初と最後の頁 129-156
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計7件（うち招待講演 4件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 宮間純一
2. 発表標題 旧藩社会をめぐる研究の現状と課題
3. 学会等名 シンポジウム「大名華族家と地域社会」（主催：加賀藩研究ネットワーク他）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 宮間純一
2. 発表標題 佐倉の城・城下町の記憶と歴史資源
3. 学会等名 佐倉市立志津公民館佐倉学入門講座（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 宮間純一
2. 発表標題 堀田伯爵家と明治の佐倉
3. 学会等名 佐倉市立中央公民館佐倉市民カレッジ（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 宮間純一
2. 発表標題 コメント シンポジウム「地域資料から近現代史を描く 北総地域の事例から 」
3. 学会等名 首都圏形成史研究会第113回例会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 宮間純一
2. 発表標題 地域における明治維新の記憶と記録
3. 学会等名 日本史研究会大会近現代史部会共同研究報告
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 宮間純一
2. 発表標題 堀田伯爵家と明治の佐倉
3. 学会等名 佐倉市立根郷公民館講演会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 宮間純一
2. 発表標題 近代における旧久留里藩社会と地域
3. 学会等名 久留里城址資料館企画展関連講演会（招待講演）
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 宮間純一 編	4. 発行年 2021年
2. 出版社 岩田書院	5. 総ページ数 139
3. 書名 歴史資源としての城・城下町	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	大沼 大晟  (Onuma Taisei)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関